

間最も多く、初發部位は耳殼最も多く、頭部、顔面、下腿之に次ぐ。死亡者は一三例にして全丹毒患者の五・六％に相當す。治療に就きては患部は二％醋酸礬土水薬法を施し近時「アクリヂン」劑の塗布或は濕布を試みたるに効果推賞に値す。其他「レ」線照射を行ひ、加ふるに昭和五年を境とし前半は「カルシウム」劑後半は非特異的免疫元を使用せしに後者の効認むべきものあり。

Achlorion Gypseum に就つ

高橋 吉定
森川 高弘

二例の菌甲を具ふる炎症強き小水疱性白癬様病竈より絲狀菌を分離せり。培養は黄褐色微細粉末性にして其の形態多形なり。菌學的には豊富に紡錘狀芽胞を作り、分類上 Achlorion gypseum に屬すものとせり。實驗的に移植し人體被髮頭部に禿瘡を、毫毛部に屢々菌甲を伴ふ小水疱性白癬様病竈を生じたり。尙動物にはすべてに菌甲を作り規則的に經過する炎症を兼發せしめたり。

尿道「レ」線像に現はれたる興味ある尿道外溢流像に就て
附、重複尿道症例追加並に Langer 及び Fischer 兩氏
の見解に對する疑義

市川 篤二
木下 正文
佐藤 秀天

二一歳の男子に於て不完全なる重複尿道を認めたり、該患者の「尿道「レ」線像」撮影に際し V. dorsalis Pedis と推定すべき像を得たり。

而して該像は文獻に就て考ふる時も、V. dorsalis Penis と見做すべきものにして、かゝる像を尿道と做す Langer の説に對しては疑なきを得ず。(以上八木抄)

皮膚科紀要 第二十六卷第六號

百日咳菌並に「インフルエンザ」菌の免疫學的研究(Ⅰ)
百日咳菌「ワクチン」の各種注射部位による免疫體產生の比較と其の消長に就て

金 内 三 郎

百日咳菌加熱「ワクチン」の種注射部位による免疫體產生の比較研究に於て凝集反應並に補體結合反應検査により、注射部位と注射菌量、注射部位と免疫體の產生度並に產生速度とは、共に重大なる關係を有すと。

經皮免疫に關する實驗的研究(Ⅱ)

鼠「チフス」菌「ワクチン」を以てせる經皮免疫
附「バラチフス」A 及 B 菌「ワクチン」を以てせる
經皮免疫

水 谷 明 雄

鼠「チフス」菌「ワクチン」を以て主として塗布による家兔健康無損傷皮膚よりの吸收は僅微にして皮下注射に比し遙に劣るが更に之を塗擦する時は強度の抗體が產生せられ、殊に皮膚炎を惹起する時は吸收は格段促進せられ、抗原吸收と皮膚炎の度とは略々平行すると。